

(別紙様式 4 - 2)

(特別支援学校用)

(熊本県立苓北支援) 学校 平成 2 8 年度学校評価計画表

1 学校教育目標

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援をとおして、個々の可能性を伸ばし、現在の生活の充実と将来の自立と豊かな生活につながる教育を行う。

2 本年度の重点目標

- 児童生徒の教育的ニーズに基づく指導の充実と安全・安心な教育環境づくり
- 専門性の向上
- 特別支援教育の推進
- 「はまゆう療育園」をはじめとする関係機関との連携強化

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	学校教育目標の実現に向けた分掌部等の各組織の連携	○課題の共有化 ○役割の明確化 ○情報共有の日常化 ○取組の適切な推進	○課題についての理解を深め各分掌部間の共通化を図る。 ○課題の解決方法を構造化し、各分掌部の役割や業務との関連性を掴みやすくする。 ○取組の推進状況を各分掌部が適宜把握し、見直しをする。	・主任主事との個別ヒアリング、関係者協議を適宜実施する。 ・各分掌部等の役割を踏まえた取組内容及びスケジュールの調整・適正化を行う。 ・取組の推進状況を把握し、適宜助言等を行う。	B	(成果) ○現状の分析と課題の抽出を主任主事全員で行ったことで、課題と改善意識レベルの共通化を図ることができた。 ○課題解決に向けた方策を具体化することができた。 (課題) ●取組を確実なものとするために全職員での共通理解と適切なスケジュールの設定を行う必要がある。
	心身共にゆとりを持って授業・業務に専念できる学校の実現	○業務の適正化・効率化 ○職務意識の向上 ○業務の効率的遂行	○執務状況を的確に把握する。 ○主任主事等の役職を踏まえた担当業務の適正化を図る。 ○個々の職員が自身の執務状況を把握できるようにする。 ○効率的な業務遂行への意識を高める。	・「時間外勤務調べ」を実施する。 ・勤務状況改善に向けた校務改革（①量・質を踏まえた必要業務の精選、②適切な役割分担、組織（体制）の見直し、③日課・会議等の見直し）を行う。 ・個々の職員が自身の執務状況を具体的に把握できるよう執務状況を「見える化」する。 ・定期的に効率的な業務遂行を呼びかける。	B	(成果) ○個々の職員の執務状況を把握したことで、一部職員の業務分担調整や職員会議の実施見直しなど時間確保につなげることができた。 ○執務状況の「見える化」により、効率的な業務遂行への意識が高まった。 (課題) ●質・量、時期的な集中度等に配慮した業務分担を行う必要がある。
授 業 の 充 実	児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成	○適切な教育課程の編成	○一人一人の児童生徒の力を伸ばす教育課程を検討・編成する。	・学習指導要領における教育課程や自立活動等に関する研修を実施する。 ・授業の評価を基に、学部主事や教務部を中心に各学部で検討したうえで、教育課程検討委員会を実施する。	B	(成果) ○教育課程編成の流れや次期学習指導要領のポイントについて、また、研究部中心に自立活動についての研修を行い、基本事項を全職員で周知した。 ○教育課程検討委員会で、学校全体としての課題が明確になり、メンバーで共通理解できた。

					(課題) ●各教科や合わせた指導についても基本事項を押さえる必要がある。 ●客観的に教育課程を評価するため、日々の授業や指導計画を評価する資料が必要である。
一人一人の児童生徒の実態に合った教育の実践	○適切な「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成・活用	○実効性のある「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を策定する。 ○計画的な指導および評価を実施する。	・将来像や実態把握を明確にし、学部内で検討、計画を作成する。 ・授業の評価とともに、学期末に計画についての評価を行い、指導の改善につなげる。	B	(成果) ○進路部を中心に将来像について研修を行ったり、サポート会議ではまゆう療育園との連携について確認をしたりすることで個別の教育支援計画の整理ができた。 ○各学部が学部研や学部会等で適宜、授業の振り返りを行い、指導の改善につなげることができた。 (課題) ●より使いやすい個別の指導計画の在り方について、様式や活用方法について検討する必要がある。
実践的指導力の向上	○教師の一人一人の指導力向上	○一人一人の教師の実態把握、指導計画策定、指導実践に係る力を向上させる。 ○効果的な教材・教具を開発・活用し、指導の充実及び教師の指導力向上につなげる。	・「自立活動」における必要な情報提供を行い、学んだことが身につくよう演習等を取り入れた研修を計画的に実施する。 ・教材・教具の意義に関する研修会と作製研修会、また展示会を実施し、基礎的事項や作成方法を学ぶことで、効果的な開発や活用に役立てる。	B	(成果) ○自立活動における必要な情報を抽出・整理し、シリーズ化した研修を実施した。グループワークにより実態把握や学習目標を立案するなど、授業を組み立てる際にすぐに活用できるようにした。 ○教材・教具に関する研修を実施し、意義を理解した上で、教師同士教え合いながら効果的に作製することができた。 ○各教師が学期毎に必要な情報に関する習得度をチェックし、全体的に習得度を上げることができた。 (課題) ●全体的に基礎的な指導力の習得度は上がっているが、まだまだ向上していく必要がある。引き続き効果的な研修を計画・実施していきたい。

キャリア教育 (進路指導)	卒業後の生活を見据えた取組	○医療、福祉等の関係機関や保護者との連携強化	○関係機関に関する情報を収集するとともに連携体制を充実させる。	・隣接する施設での体験活動や授業、関係者との支援会議の実施、また自宅生や在宅訪問教育生については、ケース会議を実施する。 ・障害福祉サービスについての研修や施設見学を実施し、職員の知識の底上げをする。	B	(成果) ○高等部では、隣接する施設での体験活動や授業を2回実施することができた。また、療育園関係者と学校で支援計画等をもとに支援会議（サポート会議）を2回実施した。自宅生や在宅訪問教育生については、ケース会議を実施し、関係機関との連携を図った。障害福祉サービスの基本的な内容について研修と演習を実施した。 (課題) ●医療、福祉等の関係機関との連携の強化のためにも継続した取組を行う必要がある。
生徒（生活）指導	児童生徒一人一人のよさを生かす教育の実施	○児童生徒一人一人の主体性の伸長	○児童生徒一人一人の人や物と精一杯関わろうとする気持ち育てる。	・全校集会を月に1回行う中で、児童生徒が学部を超えて互いにふれ合う活動を行う。 ・じゃるじゃるカーニバルやスクールコンサート等、学校外の人とふれ合う行事を計画的に実施する。	B	(成果) ○学部を越えて活動することが多く、ふれ合いが見られた。 (課題) ●訓練等で活動時間を調整しなければならないことがあったが、児童生徒に負担とならないよう工夫する必要がある。
人権教育の推進	職員の人権意識の向上	○正しい人権感覚に基づく授業実践	○児童生徒一人一人を尊重した関わり方や行動を意識し、実践する。	・「生活振り返りチェック表」を使用し、児童生徒への配慮や支援について、全職員が定期的に振り返る。	B	(成果) ○学期毎に実施し、児童生徒への普段の関わりを人権の観点から見直し、個人の反省点を職員で共有することができた。 (課題) ●今後も継続的に取り組み、職員全体で人権意識を高める必要がある。
		○人権教育に関する正しい知識・理解	○部落問題をはじめ様々な差別に関する正しい知識・理解を深める。	・人権課題についてのアンケート調査を行い、年3回の校内研修を実施する。 ・全職員が1回以上校外の人権研修に参加し、研修内容を職員で共有し、人権意識の向上を図る。	A	(成果) ○性同一性障がいの問題、同和問題、水俣病の問題について研修し、知識・理解を深めることができた。 ○ほぼ全ての職員が参加し、報告や資料の回覧等で研修内容を共有することができた。 (課題) ●今後も研修内容を工夫し、一人一人が正しい理解を深め、体得できるようにする。

	命を大切に する心を育む指 導の実施	○命を大切 にする心の育成	○自らを好きになり、 他の友達を大切にす る心を育てる。	・全校集会の中で、学 期に1回「なかよし 集会」を実施し、児 童生徒がお互いを 認めあえる集団づ くりを行う。	B	(成果) ○ゲームやメッセージカー ドを渡す活動を通して、互 いを知り、良さや頑張りを 認め合うことができた。 (課題) ●児童生徒が互いを認め合 える機会となるよう、人権 週間の取組を工夫する。
いじめの防止等	いじめの ない学校 づくり	○いじめの 未然防止 ・早期発 見	○いじめは起こりうる という視点で、いじ めを見過ごさない意 識の徹底を図る。	・学期に1回「いじめ 防止等対策委員会」 を実施する。本校の 実態に即した未然 防止の取組、いじめ に関する情報の共 有や対策の検討を 行う。 ・検討結果を全職員に 周知し、共通理解を 図る。	A	(成果) ○研修の中で、共通理解を図 ることができた。 (課題) ●研修後のアンケートは第 2回から実施したが、今後 継続して行い、共通理解の 徹底を図っていく。
地域支援	情報発信	○理解啓発 の促進	○特別支援教育に関す る理解啓発資料を作 成、発行する。	・関係機関と連携のう え特別支援教育に 関する理解啓発資 料を作成・発行(2 月までに)する。 ・作成した資料を学校 HPで発信する。	A	(成果) ○天草地域特別支援連携協 議会において、関係機関と 役割分担をし、連携をしな がら理解啓発資料を作成 ・発行することができた。 (課題) ●次年度も関係機関と連携 しながら、地域のニーズに 応じた情報発信を行う。
	教育支援	○教育相談 の充実	○各学校等のニーズに 対応した適切な支援 を実施する。	・本校支援エリア内の 全学校のコーディネ ーターや担任に アンケートを実施 し、ニーズを把握す る。 ・ニーズの分析結果を 元に必要な支援を 12月までに行う。 ・10月までに相談依 頼のない学校につ いては、巡回訪問に より状況を把握す るとともに、必要に 応じて支援を行う。	B	(成果) ○12月までに全ての学校 を訪問し、アンケート結果 を参考にしながら、各学校 の取組や課題についての 情報交換をすることがで きた。また具体的な事例に ついての相談もあり、支援 につなげることができた。 (課題) ●次年度もアンケートを活 用するなどして、より詳し く各学校等のニーズを把 握し、継続して取り組む。

保護者・地域等との連携	保護者との連携	○保護者との信頼関係の強化	○授業参観、懇談会、学校行事などへの保護者の参加率を60パーセント以上で維持する。 (平成27年度:59%、平成26年度:63%)	・児童生徒の様子が伝わるように通信等を工夫する。 ・保護者の都合を考慮した期日設定を行うとともに、懇談会や授業参観、家庭訪問については個々の状況に応じて柔軟に対応する。 ・保護者との親睦の機会を早期に設定する。	A	(成果) ○主要の4行事平均で67.1%の参加率を達成することができた。 (課題) ●更なる参加率の向上を目指す必要がある。
	地域等に信頼される学校づくり	○はまゆう療育園及び地域の人材や団体との連携	○はまゆう療育園・地域の人材や団体との協力体制を強化する。 ○新たな人材・団体とのつながりをつくり、協力関係を構築する。	・療育園とは定期的な連絡会を中心に日常的な連絡体制を充実させる。 ・療育園及び地域の行事への参加・協力を積極的に行う。 ・HPや学校新聞を通じて常に新しい情報を発信できるようにする。 ・地域の人的資源に係る情報収集を行う。	B	(成果) ○児童生徒や家庭の状況に応じ、個別に情報を共有することで、園と学校の対応の共通化を図ることができた。 ○園の夏祭りやクリスマス会に参加し、保護者やはまゆう療育園職員と情報交換することができた。 ○HPを活用して、臨機に情報を発信することができた。 (課題) ●新たな人材や団体との関係の構築に努める必要がある。
安全・安心な学校生活	危機管理、安全管理の徹底	○危機管理意識及び対応力の向上	○職員の、日頃の状況を「見る意識」とリスクに「気付く目」を養う。 ○危機管理マニュアルを熟知し、緊急時の対応力を高める。	・事故防止のため、安全面等に関するヒヤリハットを出し合い、職員間で情報を共有するとともに注意喚起につなげる。 ・過去のヒヤリハットについて、行事前等に情報を共有する。 ・事前に緊急時の流れを確認のうえ、危機管理マニュアルを活用した訓練を実施する。 ・具体的場面を想定した訓練内容を計画、実施する。	B	(成果) ○過去のヒヤリハットを行事前共有することで、安全面を意識して準備や活動を行うことができた。 ○各訓練ではマニュアルに基づき、各学部で動きを確認したうえで訓練を実施することができた。訓練後の反省、徹底事項に関して、全体で共有し改善につながっている。 (課題) ●ヒヤリハット事例は、必ず学部で原因や対策を話し合い、組織で事故防止に努める。

4 学校関係者評価

第2回学校評議員会において、自己評価アンケート集計結果等の説明を行った。それをもとに以下のような意見を出していただいた。主に学校からの情報発信に関することが中心であった。

- 行事等のお知らせはいつもいただくが、公開授業をはじめ日頃の授業の様子等を見ることで、児童生徒の日頃の頑張りや、先生方の工夫が分かるのではないかな。
- 紙面や電話だけでなく、お互い顔を合わせて情報交換することでより伝わることもあると思う。職員同士お互い足を運ぶ機会を作ることが必要。
- 療育園職員間の情報伝達方法について見直す必要があると思う。現在組織の見直しを行っているところである。限られた人数の中で良いところは残し、変わっていけるところは変えていきたい。
- 今年度は初めて療育研究発表会を参観させてもらった。療育という切り口から本校児童生徒を見ることができ、大変参考になった。卒業した後もつながっていく視点からも、今後も密接な連携をお願いしたい。

5 総合評価

1 学校教育目標

児童生徒の「自立と豊かな生活」を目指した活動を計画・準備し実践した。今後も、児童生徒が学んだことを普段の生活や卒業後の生活に生かしていけるように取り組んでいく。

2 本年度の重点目標

(1) 児童生徒の教育的ニーズに基づく指導の充実と安全・安心な教育環境づくり

研究部、教務部、進路・地域支援部が中心となって研究を推進し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」における基本的な要素である「実態把握」「生活ニーズの把握」「目標設定」「学習内容・方法」について、関連する情報の収集や考え方の整理に取り組んだ。その結果を全職員で共有したことで、それぞれの児童生徒の教育的ニーズをより細かく捉えることができ、指導の充実につなげることができた。

通常の避難訓練やそれぞれの児童生徒個別の状況を想定した緊急時搬送訓練などの実施により緊急事態発生時の組織対応力を向上させることができています。また、昨年度までに上げられた「ヒヤリハット」に関する情報の収集と分析、行事等実施前の再確認の徹底により、職員の危機管理意識が向上し、類似のヒヤリハット事案の再発を防ぐことができています。「危機管理研修」を実施し、危機管理に関する基本的知識や考え方についても押さえたことで、危険の予測や対応についての実践力の基盤も培うことができています。

(2) 専門性の向上

研究推進の一環として、前述の諸指導計画作成における基本的な要素や教育課程編成の基本事項、自立活動の基本事項及び指導における考え方・指導の具体例などについて研修を行い、知識を高めることができた。また、集団による課題解決の話し合いシステムを構築し、学部や学習グループ毎に実践したことで、指導の組立や授業場面における児童生徒の行動の読み取りなどについての実際的な授業場面の検証・見直しを行う中で、授業実践力の向上を図ることができた。

(3) 特別支援教育の推進

天草地域の全ての小・中学校対象の実態調査（アンケート）を行ったことで、それぞれの学校の現状や抱える課題等を把握することができた。また、その内容を踏まえたうえで巡回訪問を行ったことで、提供すべき情報の整理が可能となり、学校のみならず特別支援教育コーディネータや特別支援学級担任等のニーズに応じた支援を効果的に実施することができた。併せて、次年度以降の「特別支援教育基礎講座」等の実施においても、講座等の構成や提供すべき情報などを検討していく際の基礎情報として生かしていけるものと考えている。

(4) 「はまゆう療育園」をはじめとする関係機関との連携強化

通学生や在宅訪問生については、ケース会議や卒業後を見据えた施設体験を実施し、必要とされる具体的な情報の収集・交換することができた。また、はまゆう療育園入所児童生徒については、情報交換の在り方を見直し「サポート会議」として、個々の児童生徒に対する教育と療育の方向性を確認し、双方の取組の具体的な調整を行うようにした。日常的には月1回の連絡協議会や、はまゆう療育園行事への本校職員の参加等で、逐次、児童生徒に関する情報交換を行うなど、学校教育目標達成に向けた連携体制を強化することができた。

3 自己評価総括表

全ての項目が「A」または「B」の評価であり、本年度の取組としては、概ね達成されたものと考えている。

6 次年度への課題・改善方策

①校内業務の効率化

近年の社会的な流れ・動向により、学校に求められる役割や取り組むべき内容が増加している中、次年度本校は、創立から40年目を迎え、関連行事の実施も控えている。職員の業務量の更なる増加が予想されることから、業務の整理・見直しと適切な分担を行うことで、個々の職員が授業準備や自己研修に当たるための時間を確保し、余裕を持って児童生徒と向き合える状況を確保することが必要である。

②教職員個々の専門性と組織力の向上

本年度の取組を通し、個々の職員が協働して課題解決に当たるための意識や指導の組立及び指導場面における児童生徒の行動に関する理解の向上など一定の成果は見られたが、「児童生徒の豊かで自立した生活」の実現に向け、適切な学習内容を系統的に実践できているとは言い難い。個別の教育支援計画や個別の指導計画の適正化を軸にした授業実践の充実と職員の専門性の向上を図るために、取組を見直しつつ継続して取り組む必要がある。